



12歳から韓国舞踊を学ぶ。韓国宮廷舞踊の人間国宝、金千興氏らに師事。80年に舞踊団創立。大阪府出身。47歳。

て、何を表現するかが大切」と信じているからである。  
三重差別に悩んだこともあった。まず、いわれなき偏見。次に、日本人の来日韓国人芸術家を大事にする風潮、さらに在日同胞たちの本國志向……。  
そして、「なぜ日本人と一緒にやるのか」という同胞の声に

「人権とか民族問題を前面に出すのは嫌です。人間の物語——この作品を携えて、死ぬまで日本全国を巡りたい」

編集委員 北川 登園

日本人による、日本人のための芸術祭。これまで外国人には門戸を閉ざしていたが、ついに扉を開けられた。

「芸術祭参加は、日本人には大したことじゃないかも知れませんが、素直にうれしいと思います。私たちの作品が評価されたのですから……」  
日本で生まれ、日本で教育を

# 顔

受けた。「言葉も感覚も好みも日本的」と思っているが、芸術祭は、在日二世にとって厚い壁だった。しかし、今年から規約が変わり、参加を認められた。

ところが、当の役人に「韓国舞踊を評価する審査員はいませぬ。それでもいいんですか」と言われ、「いいです」と答えていた。「舞踊という形態を通し

心が乱れた。舞踊団員の三分の二が日本人。「舞踊家として迷い、中途半端だったと思います」と白首する。  
その迷いは、演出家・関矢幸雄さんのひと言で消えた。

「韓国舞踊は、いろんな表現が出来るんですね」  
二人の出会いが、舞踊詩劇「アリアリ」を生んだ。韓国農民の親子三代にわたる、大地を通しての愛と悲しみを描いた普遍的な物語である。今は、自信を持って言うことが出来る。

外国人で初めて文化庁芸術祭に参加する在日韓国人舞踊家

パク ジョンジャ  
朴 貞子さん